

W3章 格表示の歴史

格がどのように表示されてきたのかを概観します。

W3.1 「を」とは何か (22)

「を」が元来は「間投描写詞」(国語学の「間投助詞」)で、それが目的格や一般格を表すようになったことを述べます。

W3.2 格表示の歴史 [1] 主格 (28) …… 主格表示の歴史を述べます。

W3.3 格表示の歴史 [2] を格 (30) …… 2種類の「を格」があります。

W3.4 格表示の歴史 [3] に格 (32) …… 「に格」の意味はたくさん。

W3.5 格表示の歴史 [4] へ格 (34) …… 適用範囲が増えました。

W3.6 格表示の歴史 [5] で格 (36) …… 「にして」から生まれました。

W3.7 格表示の歴史 [6] と格 (38) …… 「って」も生まれました。

W3.8 格表示の歴史 [7] から格 (41) … 名詞から生まれました。

W3.9 格表示の歴史 [8] より格 (42) … 「より」などは消えました。

W3.10 格表示の歴史 [9] まで格 (42) … 名詞から生まれました。

W3.11 格表示の歴史 [10] 〇2格 (44) … 国語文法にはありません。

W3.12 格表示の歴史 [11] 一覧表 (45) … 格表示の歴史の一覧表です。

W3.13 準格詞 (46) ……………… 準格詞も格を示します。

W3.1 「を」とは何か

格について述べるまえに、まず「を」が何であるかを明らかにしておきます。

A2章

「を」の問題点

「を」は他動詞の目的語を表す …… 現代の日本人にはこのような思い込みがあります。確かに、次の場合にはこれがあてはまります。

本^を読む (「本」が他動詞「読む」の目的語であることを「を」が示す。) つまり、「読む yom-u」が他動詞で、「本」がその他動詞の目的語で、そのことを「を」が示しています。

しかし、次の場合は当てはまりません。3例とも動詞は自動詞です。

公園^を歩く (「公園」が自動詞「歩く」の行為実現の場所であることを「を」が示す。)

何^をあわてて (「何」が自動詞「あわてる」の原因であることを「を」が示す。)

世^をすねる (「世」が自動詞「すねる」の理由であることを「を」が示す。)

このような例に接して日本人は、「〈公園を歩く〉の〈公園〉は〈歩く〉の目的語である」つまり、「日本語の自動詞には目的語をとるものがある」と考えたりしてしまいます。

これは、こう捉えなければならないものではないでしょうか。

「を格」は他動詞の「目的格」とは限らない。

「を」は他動詞の目的語を表すだけではない。

では、そもそも「を」とは何なのかということになります。それで、「を」を明らかにするために、歴史的に推移をたどってみる必要があります。

「を」は間投描写詞だった

本文法では「間投描写詞」ですが、国語学では「間投助詞」といいます。

「を」ははじめ、国語学でいう「間投助詞」というものでした。

間投助詞……文中または文末の文節に付いて、語調を整え、感動・余情・強調などの意を添える。「や」「を」等(現代語では「な」「ね」等)。

例を示せば、次のようなものです。

漁^{あさり}する人^{あさり}とを見ませ…… (漁する人とね見てください……)

現代語の例で示せば次のようになります。

あたしがね、見たらさ、何かの卵のようだったのね。

間投助詞は文の意味とは関係がありません。語調を整えたりするだけのものですから、なくてもよいものです。○で表せばこうなります。意味は変化しません。

漁^{あさり}する人と○見ませ……

あたしが○、見たら○、何かの卵のようだったの○。

間投描写詞としての「を」のあり方

間投描写詞（間投助詞）としての「を」の使い方の例を、下に万葉集の歌で示します。（歌の後の数字は、歌番号です。）

下線をほどこした部分の「を」の位置について、次ページで表にまとめ、さらに構造図でも示しました。

- ① 命^{また}をし 全^{きぬ}くしあらば あり衣^{のち}の ありて後^あにも 逢^あはざらめやも (3741)
(命さえ無事であつたら、こうしてとうとう逢わずじまいということがあろうか。)
- ② 乙^{をとめ}女^{そで}ら^{みづかき}を 袖^{あは}振^ある山^あの 瑞^{みづかき}垣^あの 久^あしき時^あゆ 思^あひけり我^あは (2415)
(乙女たちが袖を振る、その布留山の神垣のように、久しい間思ってきたよ。私は。)
- ③ 采^{うねめ}女^{そで}の 袖^あ吹^あき返^あす 明^あ日^あ香^あ風^あ 都^あを^あ遠^あみ いたづらに吹^あく (51)
(采女らの袖を吹き返していた明日香風は、都が遠いのでむなしく吹いている。)
- ④ 紫^{むらさき}草^{いも}の にほへる妹^{いも}を 憎^{いも}くあらば 人^{ひと}妻^{つま}故^{ゆゑ}に 我^あ恋^あひめやも (21)
(紫草のように匂うあなたを憎いと思つたら、人妻と知りながら恋しく思うでしょうか。)
- ⑤ 忘^われ草^{ひも} 我^わが紐^{ひも}に付^かく 香^か具^ぐ山^{やま}の 古^ふりにし里^ふを 忘^われむがため (334)
(忘れ草を私の紐につけておく。香具山の古い京を忘れるために。)
- ⑥ たづがなき 葦^{あし}辺^へを^あさして 飛^あび渡^ある あなたづたづし ひとりさ寝^あれば (3626)
(おぼつかない葦辺をさして鶴が飛び渡るように、ああ心細いものだ、独りで寝るのは。)
- ⑦ 川^あ風^あの 寒^{はつせ}き長^あ谷^あを 嘆^あきつつ 君^あがある^あく^あに 似^ある人も逢^あへや (425)
(川風の寒い長谷を嘆き嘆き通っている王(おおきみ)に似ている人さえも出くわさない。)
- ⑧ 君^{きみ}が行^けき 日^ひ長^けくなりぬ やまたづの 迎^{むか}へ^あを行^あかむ^あ 待^あつには待^あたじ (90)
(あなたの旅は久しくなった。お迎えに行こう。とても待つてはいられない。)
- ⑨ 漁^{あさり}する 人^{ひと}とを見^みませ 草^{くさ}枕^{まくら} 旅^の行^のく人^のに わが名^のは告^のらじ (1727)
(漁をするただの海人だと見てください。旅のお方にわたしたちの名は明かせません。)
- ⑩ 現^{うつ}には 逢^あうよしもなし ぬばたまの 夜^{よる}の夢^{いめ}に^つを 継^つぎて見^みえこそ (807)
(現実には逢うすべもありません。夜の夢の中に続けて見えてほしいのです。)
- ⑪ 渡^{わた}り守^{もり} 舟^{ふね}渡^{わた}せを^をと 呼^よぶ声^{こゑ}の 至^{かち}らねばか^{おと}も 梶^{かぢ}の音^{おと}のせぬ (2072)
(渡り守、舟を渡せ)と呼ぶ声が届かないからか、梶の音も聞こえない。)
- ⑫ 生^{ひと}ける者^{つひ} 遂^{つひ}にも死^しぬる ものにあれば この世^よにある間^まは 楽^{たの}しくを^をあらな (349)
(生者はいずれは死ぬものだから、この世にある間は酒を飲んで楽しくやろう。)

問W3-1 目的格を表す格詞はもともと何でしたか。

問W3-2 「を」は元来目的格を表す格詞でしたか。

問W3-3 現代語で「を」は目的格を表すと言ってよいでしょうか。

間投描写詞「を」の位置

下表中 〃 は格を表します。

「を」は格のあるところ(①～⑩)にも、格のないところ(⑪⑫)にも入りました。
格のあるところでは格表示のないところ(①～⑧)と、あるところ(⑨⑩)があります。

表W3-1 間投描写詞「を」の位置

「を」の位置			例 文 (現代語訳)	現代格
名詞の格表示の有無	名詞の格表示なし	従属節内の 主格名詞の後に「を」	① 命 <u>を</u> しまたくしあらば (命 <u>が</u> さえ無事ならば)	が 1
			② 乙女ら <u>を</u> 袖振る山 (乙女ら <u>が</u> 袖を振る山)	が 1
			③ 都 <u>を</u> 遠み (都 <u>が</u> 遠いので)	が 1
			④ 妹 <u>を</u> 憎くあらば (妹 <u>が</u> 憎いならば)	が 1
		他動詞の 目的格名詞 の後に「を」	⑤ 里 <u>を</u> 忘れむ (里 <u>を</u> 忘れよう)	を
			⑥ 葦辺 <u>を</u> さして (葦辺 <u>を</u> さして)	を
	格表示あり	一般格名詞 の後に「を」	⑦ 長谷 <u>を</u> 君が歩く (長谷 <u>を</u> 君が歩く)	を
		場所	⑧ 迎へ <u>を</u> を往かむ (迎え <u>に</u> 行きます)	に
	格表示あり	一般格名詞 の後に「を」	⑨ 漁する人 <u>と</u> を見ませ (漁する人 <u>と</u> 見てください)	と
		と格	⑩ 夢 <u>に</u> を継ぎて (夢 <u>に</u> ついて／夢から夢へと)	に
格のないところ	動詞の命令形のあと		⑪ 渡り守舟渡せ <u>を</u> (渡し守, 舟を渡せ <u>よ</u>)	
	形容詞と動詞の間		⑫ 楽しく <u>を</u> あらな (楽しく <u>ね</u> いたい)	

現代語

①～④の格は現代語では主格の「が」で表示できるものです。

⑤⑥の「を」が、他動詞の目的格を示す「を」になりました。

⑦の「を」が、他動詞の目的格を示すのでない「を」になりました。

⑧は「に格」で表示されるようになり、⑨以下を始め全般的に間投描写詞(間投助詞)としての「を」は、「ね」や「な」「よ」などに変わりました。

左ページ表中の①～⑫は p.23 に示した歌の下線部です。この構造図を下に示します。②③⑤⑦⑨⑩は、各歌の全体構造が、次ページ以下に示してあります。

表W3-2 間投描写詞「を」の構造上の位置

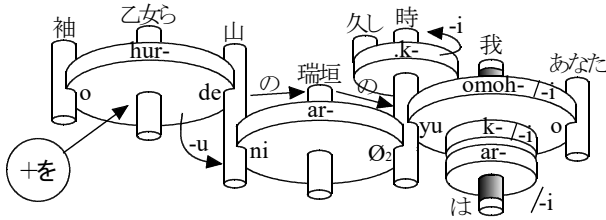
① 命<u>を</u>しまたくしあらば 2つの○は、「し」を表します。 「命」は主格	② 乙女<u>ら</u><u>を</u>袖振る山 「乙女ら」は主格	③ 都<u>を</u>を遠み 「都」は主格
④ 妹<u>を</u>憎くあらば 「妹」は主格	⑤ 里<u>を</u>を忘れむ 「里」は 他動詞「忘れる」の目的格	⑥ 葦<u>を</u>をさして 「葦」は 他動詞「さす」の目的格
⑦ 長谷<u>を</u>を君が歩く 「が」はまだ主格詞ではあり ませんでした。 「長谷の」は「場所」を示す格	⑧ 迎へ<u>を</u>を往かむ 「迎へ」は現代語では ni 格にあります。	⑨ 漁する人<u>と</u>をを見ませ 「人」は to 格
⑩ 夢<u>に</u>を継ぎて 「夢」は ni 格	⑪ 渡り守舟<u>を</u>を渡せ	⑫ 楽しく<u>を</u>をあらな

⑪⑫とも名詞の格に関係ないところに「を」が入りました。

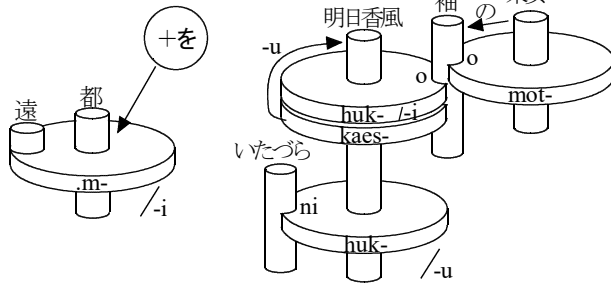
表W3-3 間投描写詞「を」の構造上の位置 (和歌)

参考までに、6つの歌の全体構造を示します。(細かい説明はしません。) 理解を助けるために、図では多くの $\emptyset$ を現代語のように o や ni で表示しています。

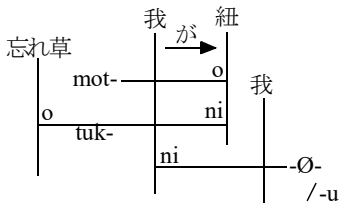
② ^{をとめ}乙女^{そで}らを^{みづかき}袖振る^{あれ}山の 瑞垣の 久しき^我時ゆ 思ひけり^{あなた}我は (2415)



③ ^{うねめ}采女^{そで}の 袖吹き返す 明日^{あす}香風^か 都^{みやこ}を^{とお}遠み いたづらに吹く (51)



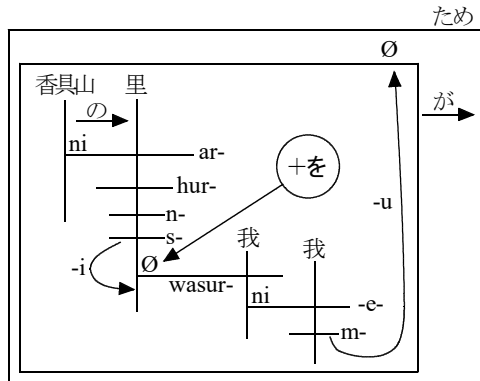
⑤ ^わ忘れ草^{ひも} 我^かが^ぐ紐^{やま}に付く 香具山^ふの 古^{ふる}りにし^を里を 忘れむ^{ため}がため (334)



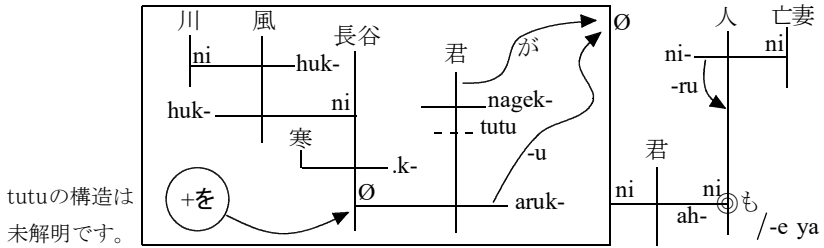
上の-Ø-は許容態なので、現代語なら-c-です。

tuk;Ø- (付く) → tuk;c- (付ける)

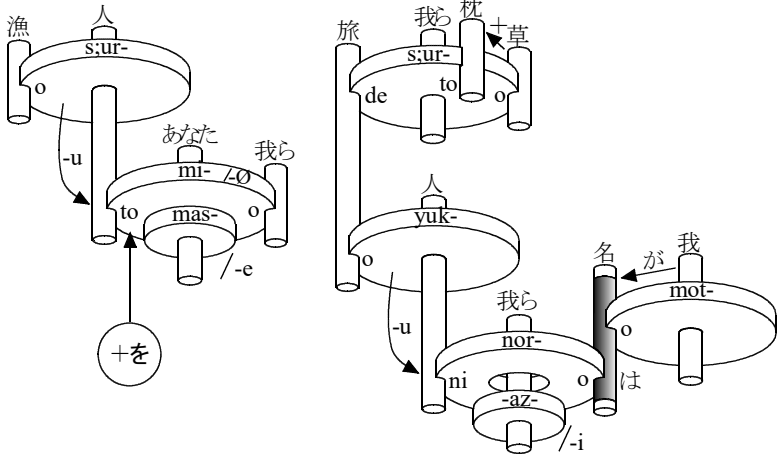
Vのp.54 参照



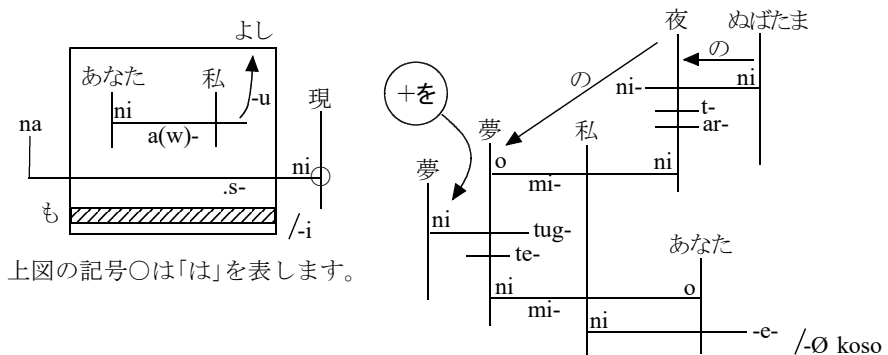
- ⑦ 川風の 寒き^{はつせ}長谷^を 嘆きつつ 君^あがあるくに 似る人も逢へや (425)



- ⑨ 漁^{あさり}する 人^をとを見ませ 草枕 旅行く人に わが名^のは告らじ (1727)



- ⑩ 現^{うつ}には 逢う^あよしもなし ぬばたまの 夜^{よる}の^{いめ}夢^つに^を 継ぎて 見えこそ (807)



問W3-4 上の図で○の中に入った「+を」では、何を言おうとしていますか。

W3.2 格表示の歴史[1] 主格

『文法』6.5, 11.6, S1.3

		8c	9c	10c	11c	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
図W3-1 主格		奈良		平安			鎌倉		室町		江戸		現代		
主 格	〇 ₁ 格	→													
	が ₁ , が ₂	③ →													
	が ₁ 従属節内	…〇を… が …… ① ↑ ②a ↑ ②b →													

①～③については下の①～③の記述を参照

現代語 現代語の主格には、右ページの図のように、3種類あります。**第1主格** (主格詞は 〇₁) 多くの場合、描写詞の「は」を伴います。田中さん 〇₁ 学生です。 (田中さん 〇₁ は 学生です。)**第2主格** (主格詞は「が」…ガ₁)あそこに 田中さんが いますよ。(主文の主語)天気が よいので、少し歩いた。(従属節の主語)**第3主格** (主格詞は「が」…ガ₂)田中さんが 話しました。 (「誰が話した？」への回答)**古語** 古語ではこうなっていました。**第1主格** (主格詞は 〇₁)花 〇₁ 咲く**第2主格** (主格詞ははじめ「〇を」と表示。のちに「が」と表示。)

① 従属節の主語を示すのに「〇を」の形をとりました。(pp.23-25 の例)

乙女ら〇を 袖振る山 / 妹〇を 憎くあらば② 「が」はもともと「の」と同じく「**実体つなぎ描写詞**」でした。(本書p.52 参照)海人の舟 / 妹が家動詞による修飾が加わると、その「が」は、②aでは「実体つなぎ描写詞」のままでしたが、②bで従属節内の主格を表すようになりました(ガ₁)。②a 海人のこご舟 / ②a 妹が住む家 ②b 妹が住む 家

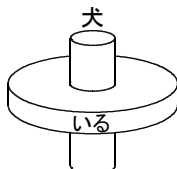
③ 「が」はその後、鎌倉・室町時代に主文の主格も表すようになりました。

妹が住む。**第3主格** (主格詞は「が」…ガ₂)日本語話者が第3主格を認識したのはいつごろであるか、「ガ₂」として使い始めたのはいつごろであるかについて、詳しい調査が必要です。

主格には、第1主格から第3主格まで3種類あります。これは主体と属性の設定順に違いがあるからです。S1.3 で示した図を、ここにもう一度掲載します。

第1主格 (Ø₁主格…ゼロ主格)……主体の設定が属性の設定に先立つ格

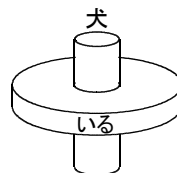
その主体そのものに関心があり、多様な属性から1つを選び出します。
格詞は古代から現代までありませんので、Ø₁ (ゼロイチ)で表します。



図W3-2 犬 Ø₁ いる

第2主格 (が₁主格)……主体の設定が属性の設定と同時である格

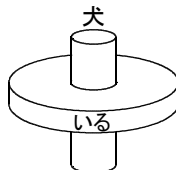
主体と属性の結びつきそのものに関心があり、状況について述べます。
主体と属性がはじめて結びついているこの格は格詞「が」で表します。



図W3-3 ほら、犬が₁いる / 犬が₁いる[のが₁見える]

第3主格 (が₂主格)……主体の設定が属性の設定より後になる格

まず属性の方が先に決定して、主体は後から選択されて決まります。
属性を構成する多様な主体から1つを選び出す主格で、格詞は「が」です。



図W3-4 (「何がいるか」という問いに対する回答) 犬 が₂ いる

問W3-5 歴史的に、「を」が主格を表しているようにみえたことがありますか。

問W3-6 主格を表す「が」はもともとあった格詞ですか。

W3.3 格表示の歴史[2] を格

『文法』11.6

		8c	9c	10c	11c	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
図W3-5 を格		奈良	平安				鎌倉	室町			江戸			現代	
を格	目的格	〇 _目	→												
		を _目	→												
	一般格	〇 _一	→												
		を _一	→												

「を格」は「目的格」である、と一般にいわれます。

目的格……他動詞・原因態の表す動作等の影響が及ぶ人や事物を表す格

目的語……他動詞・原因態の表す動作等の影響が及ぶ人や事物を表す語

確かに、動詞が「読む」のような他動詞であれば、「を」は「目的格」を示します。

彼の₁は メールを 読む (下左図)

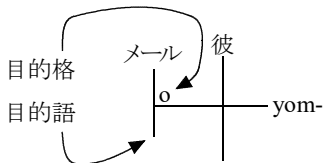
「メール」を省略して、「彼の₁は読む」といえば、「何を」と聞きたくなります。

しかし、動詞が「歩く」のような自動詞のときはどうでしょうか。

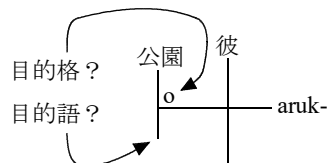
彼の₁は 公園を 歩く (下右図)

「公園」を省略しても、「どこを」と聞きたくなるのは特別な場合です。

「を」には、目的語を示す「を」と、目的語を示すのではない「を」があります。



図W3-6 メールを読む



図W3-7 公園を歩く

「を」はもと「間投描写詞」で、それが「目的格」と「一般格」を表すようになりました。

表W3-4 「を格」の示す格

を格	目的格	他動詞の目的語を表す。
	一般格	主に自動詞の事象生起場所を表す。

漢文訓読では、もと、格表示のいらなかった目的語に、ほとんど必ず「を」を付けるようになりました。その影響で和文でも「を」が格詞として定着しました。

* * * * *

自動詞「なる」は「に格」が必要です。「子どもが大人になる。」これは目的格ではありませんが、必要格です。

目的格を表す「を格」

動詞が他動詞であれば、目的語は必ずあるので、格を示さなくとも理解されます。これは話し言葉でその傾向が強いです。書き言葉では格が明示されます。

あ、空^o見て。(話し言葉)

私は空^をを見た。(話し言葉, 書き言葉)

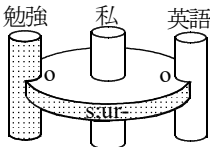
また、漢語を含め、外来語は名詞として日本語になりますが、これに「する」を付けて動詞にするときも「を」を付けます。(この「する」は他動詞です。)

勉強^をする ドライブ^をする

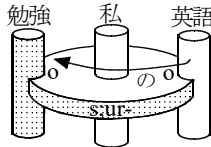
ただ、この「を」は省略されることも多いです。

勉強^oする ドライブ^oする

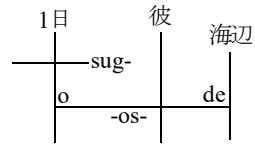
また、「英語を勉強する」(下左図)や、「英語の勉強をする」(下中央図)は可能ですが、「*英語を勉強をする」(下左図)とは言いません。(答S2-9の前提bを参照)



図W3-10 英語を勉強する



図W3-11 英語の勉強をする



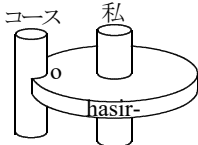
図W3-12 1日を過ごす

ちなみにいえば、「1日を過ごす」の構造は上右図のようになります。sug:os-ですから、「1日」は原因態 -os- の目的格にあるということになります。

一般格の「を格」

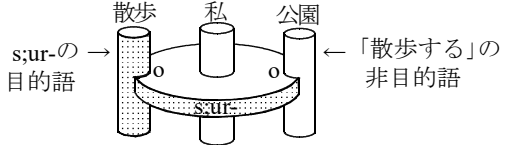
コース^を走る

この例(下左図)では、「走る」は自動詞であり、目的語はないので、「コース」は目的語ではありません。この「を格」は、事象の起こる場所を示す一般格です。



図W3-13 コースを走る

「…する」の形の動詞は、名詞と「する」の併合した「動詞C」です。(『文法』p. 56)



図W3-14 公園を散歩する

「公園を散歩する」の構造は上右図のようになっています。「散歩」は上述のように、「する」の目的語です。しかし、「公園」は、「を格」にありますが、「散歩する」の目的語ではなく、一般格で、事象の起こる場所を示しています。

W3.4 格表示の歴史[3] に格

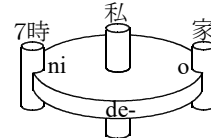
『文法』11.6

	8c	9c	10c	11c	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
図W3-15 に格	奈良		平安			鎌倉		室町			江戸		現代	
に格														

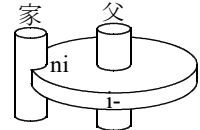
「に格」は、1点を指定するのが基本的な機能なので、事象の生起する時間・空間・心理的な1点を示します。非優先格の中では、非常に重要な格で、省略されることがまれでした。「に格」の代表的な使用例を挙げておきます。

時を表す「に格」

7時に家を出る (時点)



図W3-16 7時に家を出る



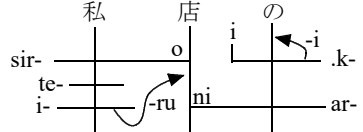
図W3-17 家にいる

場を表す「に格」

父は家にいる (存在の場所)

長崎に生まれる (発生の場所)

知っている店にいいのがある (範囲)



図W3-18 知っている店にいいのがある

方向を表す「に格」

北に進む (向かう方向)

彼に話す (行為の相手)

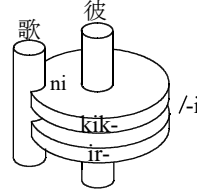
歌に聴き入る (精神集中の対象)

バスに乗る (帰着点)

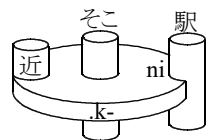
駅に近い (向かう場所)

彼にもらう (物の離脱点)

彼に聞いた (情報の離脱点)



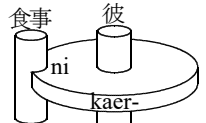
図W3-19 歌に聴き入る



図W3-20 駅に近い

目的を表す「に格」

食事に帰る (目的)



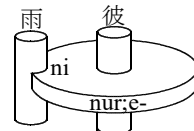
図W3-21 食事に帰る

原因・理由・よりどころを表す「に格」

雨にぬれる (原因)

試しにこれをやる (理由)

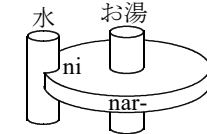
定めに従う (よりどころ)



図W3-22 雨に nur,e-ru

結果を表す「に格」

失敗に終わる (努力の結果)
お湯が水になる (変化の結果)
ピカピカに磨く (行為の結果状態)

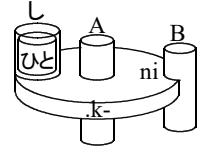


図W3-23 お湯が水になる

基準を表す「に格」

AはBに等しい (比較の基準)
1人に2つ (割り当ての基準)

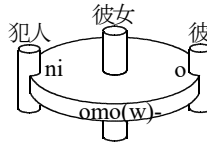
待ちに待つ (高程度の基準)



図W3-24 AはBに等しい

判断を表す「に格」

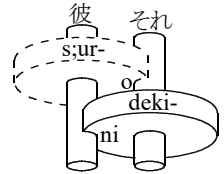
彼を犯人に思う (私見)
彼を敵に見る (見立て)



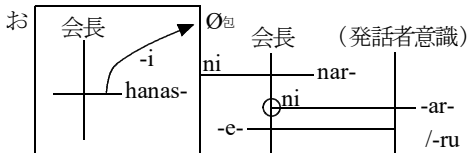
図W3-25 彼を犯人に思う

動作主を表す「に格」

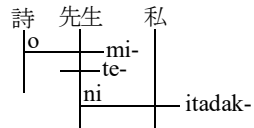
それは彼にできる(出来る) (行為成立の動作主)
会長にはお話しになる (敬意対象者が動作主)
先生に見ていただく (恩恵授与の動作主)
彼に納豆が食べられる (受影態・基表現での動作主)
彼に歌わせる (原因態・基表現での動作主)
彼に英語が話せる (許容態での動作主)



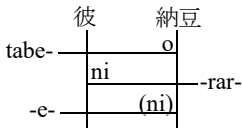
図W3-26 彼にできる(出来)



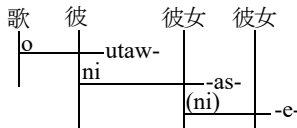
図W3-27 会長には o-hanas-i=Ø包-ni nar-(ar-e-r)u



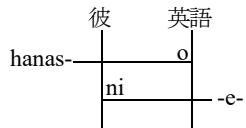
図W3-28 先生に見ていただく



図W3-29 彼に食べられる



図W3-30 彼に歌わせる



図W3-31 彼に英語が話せる

問W3-7 「薬を飲む人」「空を泳ぐ鯉のぼり」の2つの「を」の違いは何ですか。

問W3-8 「彼に薬を飲ませる」「彼に薬を飲まされる」の「に」の違いは何ですか。

W3.5 格表示の歴史[4] へ格

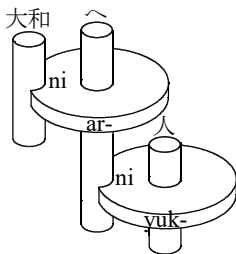
『文法』11.6

	8c	9c	10c	11c	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
図W3-32 へ格	奈良	平安				鎌倉		室町			江戸		現代	
へ格	遠い目標	→												
	移動目標	→												
	着点・対象	→												
	場所など	→												

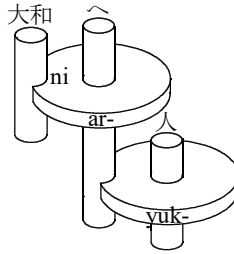
「へ」は元来は名詞

「へ」は元来は「あたり」を意味する「辺」という名詞でした。それがのちに格を表すようになりました。「に格」に代わる「へ格」が生まれました。

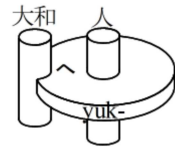
大和へに行く → 大和へ行く



図W3-33 大和へに行く



図W3-34 大和へ行く

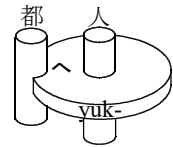


図W3-35 大和へ行く

遠い目標を表す「へ格」

平安時代中期以前は、移動性動作が話者のいる地点から遠く離れた目標・方角へ向かう意を示していました。「ここへ来る」という用法はありませんでした。

(遠い) 都へ行く

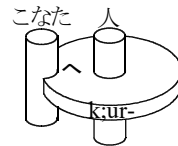


図W3-36 (遠い)都へ行く

移動目標を表す「へ格」

平安時代中期以後、「へ格」に、すべての移動性動作の目標を示す用法が生まれました。「ここへ来る」が可能になりました。

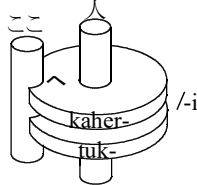
こなたへ来る



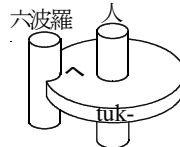
図W3-37 こなたへ来る

着点・対象を表す「へ格」

鎌倉時代には到着点・対象を示す用法が生まれ、「着く」「帰る」等の動詞で「へ」を使用することが可能となりました。

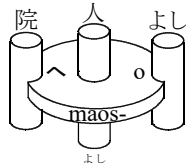


図W3-38 ここへ帰り着く

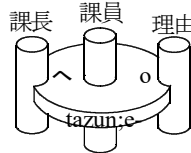


図W3-39 六波羅へ着く

また、「人へ申す／尋ねる」等動作の方向や対象を示す用法も生じました。



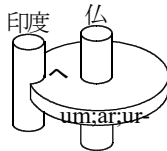
図W3-40 由を院へ申す



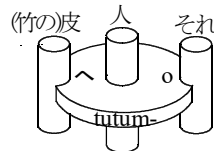
図W3-41 理由を課長へ尋ねる

場所などを表す「へ格」

室町時代には、特に話し言葉で、場所などを示す用法が生まれました。



図W3-42 印度へ生まるる



図W3-43 竹の皮へ包む

京へ筑紫に板東さ

室町時代には、行き先を表す格詞が、地方によって異なっていました。

京きょう (京都地方)では、格詞「へ」を使いました。…… 村へ行く

筑紫つくし (九州地方)では、格詞「に」を使いました。…… 村にに行く

板東ばんどう (関東地方)では、格詞「さ」を使いました。…… 村さ行く

当時のことわざ「京へ筑紫に板東さ」で、このことを知ることができます。

問W3- 9 格詞としての「へ」のおおもとの意味は何でしたか。

問W3-10 格詞としての「へ」が生まれたときの、「へ」と「に」の違いは何でしたか。

問W3-11 「それはここへあります」と言わないのはなぜだと思いますか。

W3.6 格表示の歴史[5] で格

『文法』11.5, 11.6

	8c	9c	10c	11c	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
図W3-44 で格	奈良		平安			鎌倉		室町			江戸		現代	
にして	→													
にて		→												
で			→											

「で格」の「で」は右図のようにして
「に格」から生まれたものです。これを
下に構造で見えます。

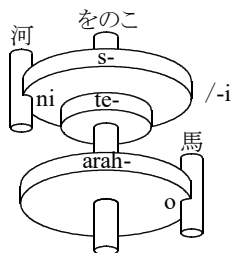
にして -ni si-te-Ø
↓
にて -ni te-Ø
↓
で -^ade / -de

図W3-45 格詞「に」から「で」が誕生

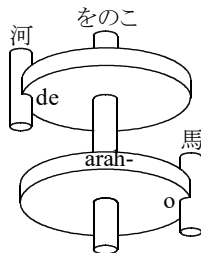
にして

-ni s-i=te-Ø

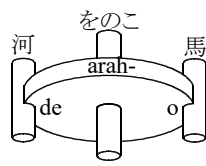
まず、「河にして -ni s-i=te-Ø」の形がありました(下左図)。「に」は格詞です。
動詞 s-i は 変格活用動詞「する s;ur-」の連用形で、意味は「ある」でした。
それで、「河にして」の意味は「河にありて」という意味でした(下左図)。



図W3-46 河に(して)馬あらふ



図W3-47 河で馬あらふ



図W3-48 河で馬あらふ

にて

-ni te-Ø

次に、構造はそのままに、動詞が省略されて「河にて -ni =te-Ø」となりました(上左図、同一図)。

で

-^ade / -de

さらに、「にて」が音韻の変化で、「で -^ade / -de」となりました(上中央図)。
「で」という格詞が誕生したことになります。「河」は動詞 s- とは関係がなくなり、
行為の動詞 (arah-) と意味上の関係を結ぶようになりました(上右図)。

問W3-12 「いい匂いがする」「今にして思えば」の動詞の意味は何ですか。

問W3-13 なぜ「駅でいる」という表現はおかしいのですか。

W3.7 格表示の歴史[6] と格

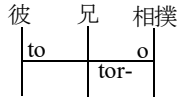
『文法』11.5 ⑤, 11.6

	8c	9c	10c	11c	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
図W3-53 と格	奈良		平安			鎌倉		室町			江戸		現代	
と	→													
と格														→

「と格」は奈良時代にすでに存在していました。代表的な格を挙げておきます。

動作の相手を表す「と格」

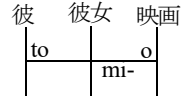
彼と相撲をとる (1人でできない)



図W3-54 彼と相撲をとる

共同動作者を表す「と格」

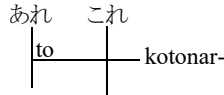
彼と映画を見る (1人でできる)



図W3-55 彼と映画を見る

比較の基準を表す「と格」

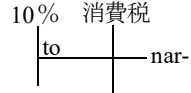
これはあれと異なる



図W3-56 あれと異なる

変化の結果を表す「と格」

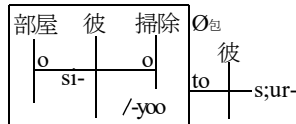
消費税が10%となる



図W3-57 10%となる

思考を表す「と格」

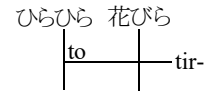
部屋を掃除しようとする



図W3-58 掃除しようとする

様態を表す「と格」

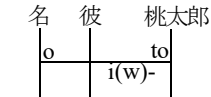
花びらがひらひらと散る



図W3-59 ひらひらと散る

呼称を表す「と格」

桃太郎という



図W3-60 桃太郎という

認知の内容を表す「と格」

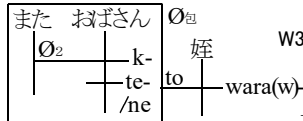
彼女を社長と知る



図W3-61 彼女を社長と知る

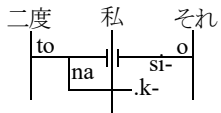
引用等の内容を表す「と格」

「また来てね」と笑う

図W3-62 「また来てね」と笑う
(「ください(ませ)」図示省略)

否定で、それ以上に出ない範囲

二度としない



図W3-63 二度としない

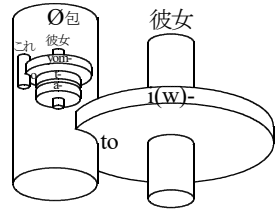
読んだって言う

「にて」から「で」の格が生まれました(W 3.6)。では、「とて」から何が生まれたのでしょうか。

まず「と」の例文を見てみましょう。

彼女は「これを読んだ」と言う

この表現の構造は右図のようになっています。



図W3-64 「これを読んだ」と言う

「これを読んだ」という引用部分が1つの名詞のようになって、「と格」に置かれています。

文が名詞のようになることを、ゼロの包含実体(Ø包) (W 6.7[6]) で表します。

では、問題の「とて」というものはあるのでしょうか。あります。たとえば、『土佐日記』の冒頭にこうあります。

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり

(男もするという日記というものを、女の私もしてみようと思つてするのである。)

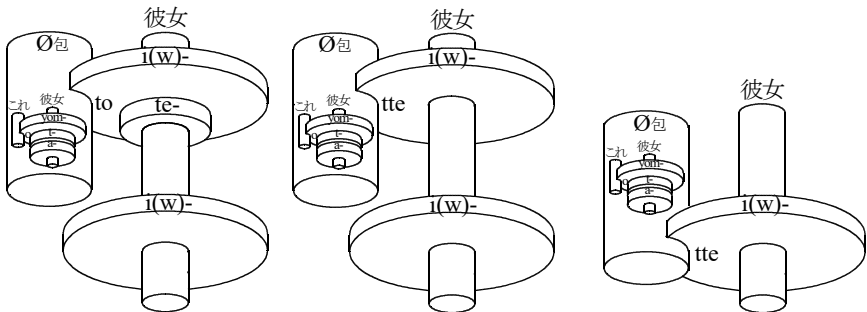
この「とて」は、「と思つて」とか「と言つて」などの、中の動詞が省略されたものです。ちょうど、「にて」が「にして」の動詞「し」を省略したことと似ています。

「と思つて」、「と言つて」 → 「とて」

「にて」のほうは「で」となり、新しい「で格」を生みました。nite → "de → de
「とて」のほうは「つて」となりました。tote → tte (母音の o の脱落)

しかし、「つて」は「とて」が口語化しただけで、意味は「と」と同じままです。つまり、「つて」は新しい格とはなりませんでした。

このことを図で示せば、下のようになります。(p.36 の「で」の図と比較)



図W3-65 読んだと言う → 図W3-66 読んだつて言う → 図W3-67 読んだって言う

問W3-15 「私の₁は妻と病魔と戦う」「私と妻が病魔と戦う」の「と」は同じですか。

問W3-16 「駅へと向かう」の表現にある、格詞の重複「へと」を説明してください。

谷さんて人

「って」は「と」の口語形(前ページ参照)です。『文法』11.5 ⑤

「って」は「と」の口語形ですが、次の例では「(っ)て」は「と」に戻せません。

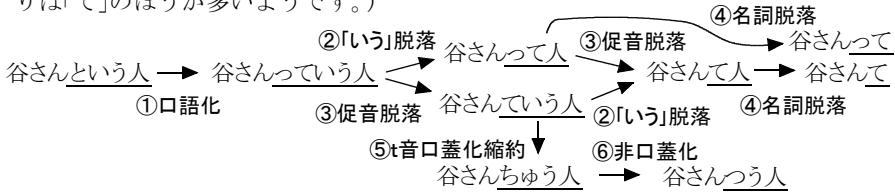
「谷さん(っ)て、知ってる？」……………「*谷さんと、知ってる？」

「谷さん(っ)て人 / (っ)つう人、知ってる？」…「*谷さんと人、知ってる？」

これらは「谷さんという人、知ってる？」と同じ意味です。ということは

という人 to=i(w)-u = (っ)て人 tte-Øu / (っ)つう人 tts(w)-u = (っ)て tte-Øu
という関係になっています。「(っ)て人」「(っ)つう人」「(っ)て」とは何なのでしょう。

次の図で、①～⑥の6つの要素があることが分かります。「ん」の後は「て」よりは「て」のほうが多いようです。)



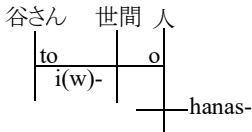
図W3-68 「という人」から「(っ)て人」「(っ)つう人」, 「(っ)て」へ

「(っ)て」「(っ)つう」は、「[呼称]という[名詞]」の構造でできた「基」であるわけです。ここでは構造を「世間が人を谷さんという」としました。ここから「谷さんという人」「(っ)て人」「(っ)つう人」「(っ)て」が描写されます。

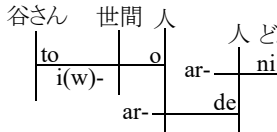


図W3-69 谷さん(っ)て/つう人

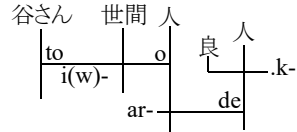
この基の構造例をいくつか見てみます。



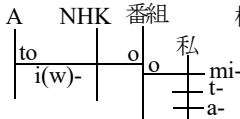
図W3-70 谷さん(っ)て/つう人が話す



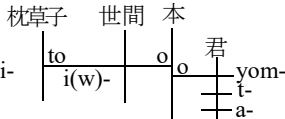
図W3-71 谷さん(っ)て/つう人どんな人?



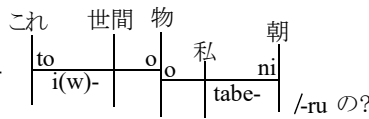
図W3-72 谷さん(っ)て/つう人いい人



図W3-73



図W3-74



図W3-75

Aという/つう番組を見た

『枕草子』って読んだ?

これって、朝食食べるの?

「これって」の「これ」は呼称ではありませんが、この構造と考えます。

「の?」の構造は正確にはW 5.4 の構造になりますが、ここでは省略します。

問W3-17 「(っ)つう(t)tu(w)-u」を新しい動詞とみることは可能ですか。

W3.8 格表示の歴史[7] から格

『文法』11.6

図W3-76

から格

8c	9c	10c	11c	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

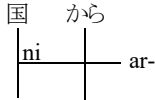
奈良 平安 鎌倉 室町 江戸 現代

から格



「から」は奈良時代に名詞から格詞へと転ずる過渡期にありました。

「から」は、「国^{かみ}から(お国がら)」「神^{かみ}から」のように、何かの「本来の性質」を意味する名詞でした(下左図)。「国」と「から」を結ぶのは+(第4修飾法, A16章)で、「国+から」のようになります。下右図は包含実体の「から」です。



図W3-77 国にからがある

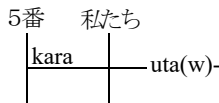


図W3-78 見るからに強そうだ

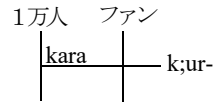
この「から」が「自然のなりゆき」を捉えているように感じられ、「原因・理由」を始め、「時間・空間的起点」、「經由点」、「初め」、「原料・材料」、「それ以上」などを表す格詞になりました。



図W3-79 中国から伝わる



図W3-80 5番から歌う



図W3-81 1万人から来る

また、「から」には次のような使い方があります。

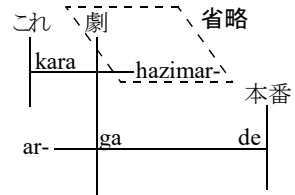
(1) これから が 本番だ

この格詞「から」には別の格詞「が」が直接についています。しかし、格詞が2つ直接についているのは表層の表現でのあり方であって、構造上のあり方ではありません。構造上では、たとえば、次のようになっています。

(1a) これから(始まる劇)が本番だ

(1b) これから(始まるの)が本番だ

この構造の中の、状況などから、表現しなくとも伝わると思われる、()内の部分が省略されて「(1c) これから()が本番だ」となったものが上の(1)の表現です。



図W3-82 これからが本番だ

問W3-18 「お茶を飲みながら話をする」の「ながら」について説明してください。

W3.9 格表示の歴史[8] より格

『文法』11.6

図W3-83

		8c	9c	10c	11c	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
	より格	奈良		平安			鎌倉		室町			江戸		現代	
より格	ゆ	→													
	ゆり	→													
	よ	→													
	より	→													

「より格」は奈良時代から使われています。同系の格詞として「ゆ・ゆり・よ」がありましたが、これらは平安時代には使用されなくなりました。

「より格」は「起点」を表すほか、「比較の基準」、「(否定で)限定」などを表します。

「より良い」のように格詞「より」の前の名詞が省略される使い方があります。

W3.10 格表示の歴史[9] まで格

『文法』11.6

図W3-84

		8c	9c	10c	11c	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
	まで格	奈良		平安			鎌倉		室町			江戸		現代	
	まで格	→													

「まで格」は奈良時代には格詞としてすでに出現していました。これももとは名詞の「真手^{まて}」(両手をひろげた長さ)であろうと考えられています。

「まで」は元来名詞だったので、4種類のあり方で拡張することができました。

①格詞、②小円筒、③包含実体、④相対化描写詞としての4種類です。

①格詞 時間・空間的な帰着点や範囲を表している「まで」は格詞です。

来週 先生 試験
made o ⊕
nobas-

図W3-85
試験は来週まで延ばす

5時 私 ここ
made ni
i-

図W3-86
5時までここにいる

駅 彼
made — aruk-

図W3-87
駅まで歩く

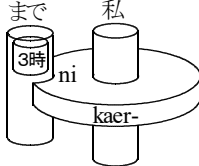
問W3-19 「より格」には他の格と異なる性質があります。説明してください。

②小円筒

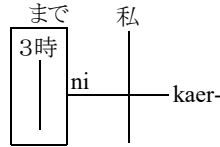
格詞ではありません。「[名詞]まで・に」の形。(Up.36, A17.1 ⑥ 参照)

3時まで・に帰る

この「まで」にはもとの名詞の性質があり,「3時」という名詞に「それに至る時間的幅」を持たせて新たな名詞「3時+まで」にしています。「3時まで・に」の意味は「3時以前のある時点に」ということで,この「まで」は「それに至る幅」を与えます。



図W3-88 3時まで・に帰る



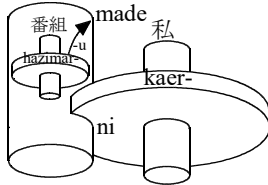
図W3-89 3時まで・に帰る (簡略図)

③包含実体

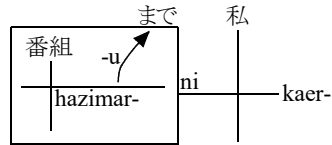
格詞ではありません。「[文]まで」の形をしています。36.9 参照

番組が始まるまでに帰る

この「まで」は「番組が始まる」に至る時間の幅を表している包含実体です。包含実体ですから,内包する文を「まで」で名詞化する機能があります。



図W3-90 始まるまでに帰る



図W3-91 始まるまでに帰る (簡略図)

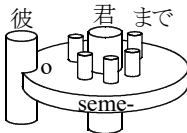
④相対化描写詞

格詞ではありません。ほかの実体の存在を示唆します。

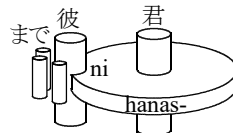
君の1まで彼を責める 「君」は主格にあります。 (下左図)

彼にまで話す 「彼」は客格(に格)にあります。(下右図)

この「まで」は極端な場合を挙げて,ほかにも同類があることを暗示しています。



図W3-92 君の1まで彼を責める



図W3-93 彼にまで話す

問W3-20 「駅へ歩く」「駅まで歩く」の違いを説明してください。

問W3-21 「彼が来るまで待つ」「彼が来るまでに電話がある」の違いは何？

W3.1: 格表示の歴史[10] Ø₂格

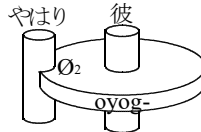
	8c	9c	10c	11c	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
図W3-94 Ø ₂ 格	奈良		平安		鎌倉		室町			江戸		現代		
Ø ₂ 格	→													

「Ø₂ 格」というのは客格の1つです。主格「Ø₁ 格」同様、音で格を表しません。

彼 Ø₁ はやはり Ø₂ 泳ぐ。

この文で、実体「やはり」は「予期したとおりに」生起するという意味を持ちます。それが属性「泳ぐ」と「その意味において」という「格(意味の関係)」を持っていますが、「に」のような耳に聞こえる格詞を持っていません。

やはり …… 予期したとおりに
Ø₂ …… その意味において

図W3-95 やはりØ₂泳ぐ

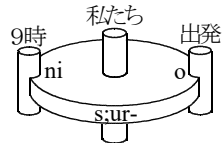
国語文法ではこのような語を副詞といっています。副詞とは「主語・述語にならない語のうち、主として連用修飾語として用いられるもの。ときに他の副詞・体言をも修飾する。」というものです。……しかし、本文法には副詞というものはありません。コラムW5 (p.108) を参照してください。

さて、「Ø₂ 格」は格表示の「省略」とも異なります。

9 時出発。(9 時 Ø_{ni} 出発。)

この文の「9 時」は「に格」の「に」の表示を省略したもので、「Ø_{ni}」がこのことを記号化しています。

「Ø_{ni}」(「に」の省略)は「Ø₂ 格」ではありません。

図W3-96 9時 Ø_{ni} 出発

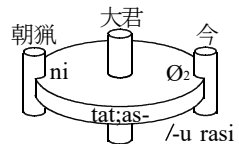
この Ø₂ 格は、国語文法では第1主格(Ø₁ 格)同様、正当な扱いを受けてこなかったので、辞書・辞典類には格としての記述がありません。用例は多いので、ここに一例を挙げておきます。以下の例では、「いま」や「今年」、「昨日」のように「現在の時点を基準として表現するその時点で事象が生起する」という格関係を表しています(下線部)。

朝あさがに いま Ø₂ 立たすらし (万葉集 3)

今年 Ø₂ 行いく新島守にひしまもりが麻衣 (万葉集 1265)

昨日 Ø₂ 見みる今日こそへだて吾妹子きのふが (万葉集 2559)

去年 Ø₂ 焼やけて今年作れり (方丈記・ゆく河)

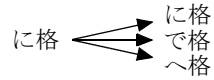
図W3-97 今 Ø₂ 立たす

W3.12 格表示の歴史[11] 一覧表

「格表示の歴史」を、一覧表の形で示しておきます。

既述のように、「で格」は「に格」から生まれました。

「へ格」は「に格」の一部に沿う形で生まれました。



図W3-98 に格

表W3-5 格表示の歴史

		8c	9c	10c	11c	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
		奈良		平安			鎌倉		室町		江戸		現代		
主格	Ø1														
	が1, が2														
	が1	従属節内	…を… …… が …… が												
を格	目的格	Ø目													
		を目													
	一般格	Øー													
		をー													
に格															
へ格	遠い目標														
	移動目標														
	着点・対象														
	場所など														
で格	にして														
	に て														
	で														
と格	と														
	って														
から格															
より格	ゆ														
	ゆり														
	よ														
	より														
まで格															
Ø2 格															

上の表では、「に格」は簡単にしか表していません。さらに詳細に歴史を反映させることも考えられます。(他の格についても同様のことがいえます。)

W3.13 準格詞

について

準格詞は基の形をしています。

「で格」は「に(して)」から生まれたことをp.36で見ました。「にして」の形と「で」の形の関係はこう表示できます。

名詞	<u>にして</u>	動詞	海	<u>にして</u>	泳ぐ	umi-ni s-i=te-Ø oyog-u
	↓			↓		
名詞	<u>で</u>	動詞	海	<u>で</u>	泳ぐ	umi-de oyog-u

意味は、「その名詞の示す場所において、動詞の示す行為をする。」ということで、この形式「にして」「で」は名詞と動詞の論理関係を表しています。格です。

では、次の表現について検討してみます。

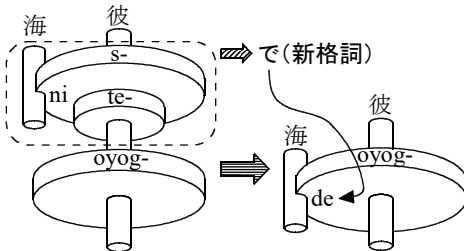
宇宙について話す

これは、「名詞 について 動詞」ですから、「海 にして 泳ぐ」と似ています。

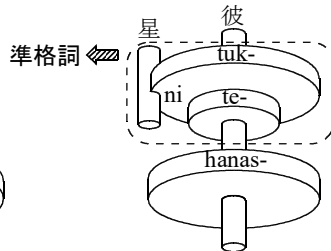
名詞(宇宙) について 動詞(話す) utyuu-ni tuk-i=te-Ø hanas-u

ここで使われている「について tuk-i=te-Ø」は動詞「就く tuk-u」の「動作や思考などの対象を限定的に示す。」の意味で使われています。(しかし、「宇宙に就く」とは表現しません。)

つまり、「について」は、「その名詞の示す事項を対象として、動詞の示す動作をする」という意味で、名詞と動詞の論理関係を表していますから、「格」と同じ機能をもっています。



図W3-99 海に(し)て泳ぐ



図W3-101 星について話す

準格詞

「にして」は「で」となって新しい格詞になりましたが、「について」は格詞になってはいません。このような、格を表しているのに格詞になっていない形式を「準格詞」と名付けます。これは「基」の形になっています。

問W3-22 「準格詞」が「基」の形になっている、とはどういうことですか。

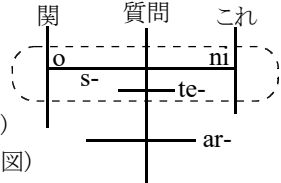
準格詞の例

「準格詞」の中にあるテ形の動詞は、前にある名詞と、後ろにある動詞などの論理関係を表すために存在しているといえます。このような形式の例として以下のものをあげておきます。テ形動詞の部分は記号Vで表します。

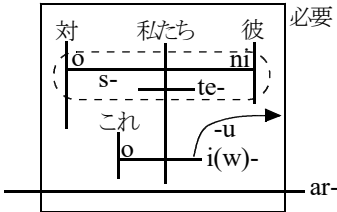
に V て

以下の「応／関／対／反」などは外来語(中国語)なので名詞の扱いです。これを動詞として用いるときは、動詞「する／ずる」の「を格」に立てます。

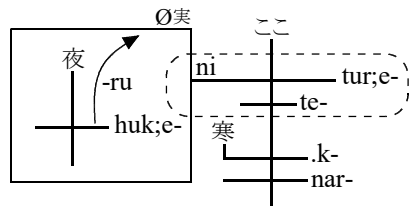
- において 面接は3号室において行われる。
 に応じて 大きさに応じて値段が異なる。
 に関して これに関して質問がある。(右図)
 に対して 彼に対して言う必要がある。(下左図)
 につれて 夜が更けるにつれて寒くなる。(下右図)
 にとって それは彼にとって都合だ。
 に反して 予想に反して彼が話した。



「関」は外来語(中国語)
図W3-102 に関して



図W3-103 彼に対してこれを言う必要がある



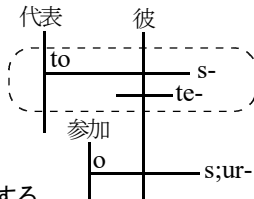
図W3-104 夜が更けるにつれて

と V て / を V て

「に V て」のほかに「と V て」「を V て」などの形をしたものもあります。

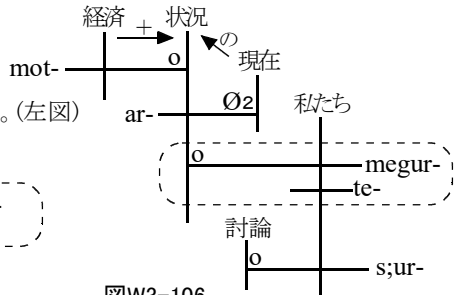
として 彼は代表として参加する。(下図)

をめぐって 現在の経済をめぐって討論する。(左図)



図W3-105

代表として参加する



図W3-106

現在の経済をめぐって討論する

コラムW1

第41章、B、Cあとがき

「日本語構造伝達文法」の誕生と発展

「日本語構造伝達文法」はどのようにして生まれたのですか、と聞かれることがあります。これは、この文法に関心を寄せてくださる方の当然の疑問だと思いますので、ここに簡単に答えておきます。この文法は今泉の体験とともに生まれたものなので、その体験を述べることになります。(第41章、B、Cあとがき参照)

[北園高校・東京外国語大学]

私は1948年5月に生まれました。父は大工でしたので、私は都立北園高校の生徒になってからは、よく仕事を手伝いに行きました。父は私が大学へ進学することは特に望んでいなかったようです。しかし、私が東京外国語大学受験を望んでも反対はしませんでした。国立大学なら行ってもよいということでした。

高校の第2外国語としてロシア語を学習したという理由でロシア語学科を受験しましたが、不合格。翌年モンゴル語学科に入りました。学部・大学院を通じて、モンゴル語はもちろん、ロシア語、中国語、朝鮮語をはじめトルコ語、チベット語、ヘブライ語等を勉強しました。また、はじめは文学を志望していましたので、西洋の古代哲学や、キルケゴール、ルソー、デカルト等々の読書もしました。

学部のゼミは哲学研究のゼミで、カントの『純粋理性批判』の手ほどきを受けました。卒業論文はルソーの『エミール』中の「サヴォアの助任司祭の信仰告白」についてでした。これは、人間の心・思考には天与の法則がある、というもので、カントに大きな影響を与えました。もちろん私の研究の大原則ともなりました。

学部には5年間在籍しました。学生運動ということもありましたが、大学に入って自由に好きなことを思いっきりできる勉強が、とてもおもしろかったのです。

[大学院・日本語構造伝達文法の誕生]

専攻したのがモンゴル語で本当によかったと思います。文法が日本語と似ているだけに、「国語」での伝統的な「かな」による文法に疑問が持てたからです。

日本語の「は」がモンゴル語の「ニ」、朝鮮語の「ウン(ヌン)」に機能が似ていたので、「格」と「は」の関係について考えることが日本語研究の入り口になりました。

また、大学院に入って間もなく、集合の図示法にヒントを得て、深層構造を立体モデルで示す方法を思いつきました。この深層構造は、日本語が口から発せられる前の段階として、頭の中に想定できるものです。

大学院にはモンゴル文学を研究するつもりで入ったのですが、半年あまりで日本語研究に転じたわけです。修士論文は「日本語構造文法」というものでした。

こうして、「日本語構造伝達文法」の基礎が生まれました。

[日本語教師、そして杏林大学教員へ]

日本語の研究を続けるために、職業として日本語教師の道を選び、モンゴル、パキスタン、スペインで9年間、勉強しながら日本語を教えました。パキスタンではウルドゥー語、スペインではスペイン語を知りました。その後、杏林大学で教職に就き、本格的に研究をし、日本語構造伝達文法を充実・発展させました。

表W1-1 今泉の略歴 年齢は事項発生時の満年齢

西暦	年齢	事 項
1948	0	5月に生まれる
1964	15	都立北園高校入学 第2外国語としてロシア語を学習 ESS部員
1968	19 24	東京外国語大学モンゴル語学科入学／モンゴル語、ロシア語、中国語、ヘブライ語を学習／西洋古代哲学、ルソー、カント、キルケゴール等を勉強／卒業論文は「サヴォアの助任司祭の信仰告白」
1973	24 26	同大学大学院入学 朝鮮語、チベット語、トルコ語等学習／集合の図示をヒントに、立体的な日本語の構造モデルを思いつく／大学院の研究内容をモンゴル文学研究から日本語文法研究に変更／修士論文は「日本語構造文法」／修了後は学習塾等講師
1978	29	国立国語研究所の日本語教育長期専門研修受講（1年弱） 日本語教師になる 国語学会、日本言語学会等で研究発表
1980	31	モンゴル国立ウランバートル大学で日本語教員（1年間）
1981	32	パキスタン・在カラチ日本国総領事館で日本語教育（4年強）
1986	38	スペイン公立マドリッド・アウトノマ大学で日本語教員（3年強）
1990	41	杏林大学 外国語学部 日本語学科 で教員になる（24年間） 以後、学部紀要に「日本語構造伝達文法」の研究論文を毎年発表
1998	49	研究休暇で1年間、韓国・高麗大学の客員研究員となり研究・執筆
2000	51	『日本語構造伝達文法』出版
2003	55	『日本語構造伝達文法・発展A』出版
2008	60	博士号取得（杏林大学・学術博士）
2009	61	『日本語態構造の研究－日本語構造伝達文法 発展B－』出版
2014	65	『主語と時相と活用と』（日本語構造伝達文法 発展C）出版 杏林大学定年退職（退職後も研究、趣味は歌謡曲の練習）
2015	67	『日本語のしくみ(1)』（日本語構造伝達文法 S）出版
2016	68	『日本語のしくみ(2)』（日本語構造伝達文法 T）出版
2017	69	『日本語のしくみ(3)』（日本語構造伝達文法 U）出版
2018	70	『日本語・中国語・印欧語』（日本語構造伝達文法・発展D）共著出版
2019	70	『日本語のしくみ(4)』（日本語構造伝達文法 V）出版
2020	71	『日本語のしくみ(5)』（日本語構造伝達文法 W）（本書）出版

コラムW2

一部の「までに」は格か

「まで」は元からの格ではなく、元来「真手^{まて}」という名詞だったようです。それで、4つの機能が持てることになりました。①格、②小円筒、③包含実体、④相対化描写詞としての4機能です(W3.10)。

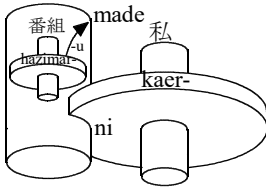
ここで問題になるのは、p.43の③包含実体の例文です。

番組が始まるまでに帰る

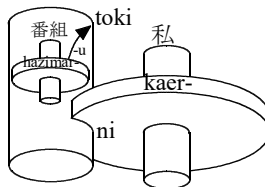
構造は下左図のようになります。もし、この文が

番組が始まるときまでに帰る

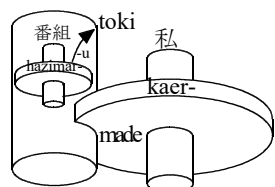
となったらどうでしょうか。「とき」も包含実体です。構造は下中図のようになるはずですが、これでは made の置き場がありません。ni の場所に made を置くと、意味が分かりにくいです(下右図)。



図コW2-1 made-ni



図コW2-2 toki-ni

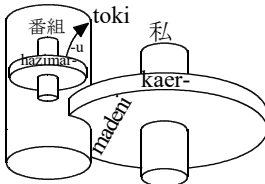


図コW2-3 toki-made

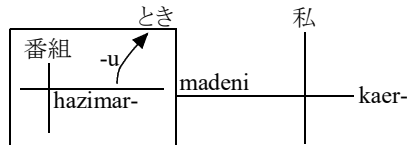
それで、「までに madeni」を1つの格とするべきなのではないかということになります(下両図)。意味は、「まで」と「に」の意味から、このようになります。

ある時点、ある位置に至る時間・空間的長さの中において行為する。

この例の場合は、「番組が始まる前に帰宅する」の意味になります。



図コW2-4 toki-madeni



図コW2-5 toki-madeni

つまり、「まで made」が格詞としてしか考えられない場合に「までに madeni」とあれば、これは madeni を1つの格詞とみなすほかない、ということです。

- ・元来名詞であった「から」も、格と包含実体になりました (p.41)。
- ・「へと」「にと」は、いずれも、格の重複です(「答W3-16」)。